

# 環境王国も実りの秋を迎えました

## 湯原小学校学習田で稲刈り

10月13日に湯原小学校の学習田で稲刈りが行われました。田植え前に力キ殻を散布し土壌改良にも取り組んだ田んぼでは、「源流米・やまのしずく」が立派に実りました。

ゲストティーチャーで1年間指導してもらっている「七ヶ宿源流米ネットワーク」の梅津賢一さんから「昨年よりも実りが多いと思います。今年は、はせがけをして自然乾燥をします」という説明のあと作業に取りかかりました。地域のおじいさんやおばあさんたちも多数応援に駆けつけて、はせをつつてもらい、刈り方や結び方、はせがけの仕方などを教えてくれました。

米づくりを通して、水源地の環境保全の大切さと地域の方々への感謝の気持ちの大切さを学んだ子ども達は、収穫の喜びを感じていました。



## 志は高く、活動は楽しく サッポロビール社員のみなさんが稲刈りを体験

9月27日に、水田環境調査【特A】の認定を受けている、湯原・柳沢地区の水田で稲刈りが行われました。当日はサッポロビール仙台工場の社員とその家族が、春から育ててきた「やまのしずく」約30アールの刈り取りを行いました。

サッポロビール仙台工場で作られるビールは、全てが七ヶ宿の水が原料となっており、そのために、「七ヶ宿のみなさんに感謝の気持ち伝えたい」という思いと、「田んぼは第二のダム、田んぼを守ることは宮城県民の飲み水を守ることに、稲作に取り組み、第二のダムを守りたい」ということで活動が始まりました。

水が取り持つ縁で始まったサッポロビールの水稲栽培は、今後の水源地と企業や都市住民との環境保全活動を通じた交流に発展する可能性を感じるものとなりました。



## 地域づくりだより

### 瀬見原・矢立地域づくり委員会がスタート

4月から委員会設立に向けた話し合いが進められていましたが、瀬見原・矢立地域づくり委員会が設立されました。

ちが違う瀬見原矢立地区ですが、今後は、地域の実情を踏まえた話し合いが進められていきます。

委員長の今野三喜男さんを始め、12名の方が地域づくり委員になりました。10月15日には第2回目の話し合いが行われました。ポストイット用紙に瀬見原と矢立地区の良いところ、悪いところを出し合い地域の現状を話し合いました。良いところとして「子どもの声が届く」「若い年代が多い」「地理的、地形的にまとまりがある」という意見がある反面、悪いところ、心配なところとして「地域への関わりが少ない」「地域内でのコミュニケーションが不足している」「高齢化が進んでいる」、1人で寂しい方もいるよ「うだ」など、日頃から感じている意見が出されました。



「瀬見原・矢立地区の話し合い」

### しだれ桜を植樹しました

#### 〜峠田地域づくり委員会〜

10月18日に、地域づくり委員会が計画された、しだれ桜の植樹が行われました。会場の峠田遊林館前には、子どもも含めた地区の住民約50名が集まり、重機を使って穴を掘り、一輪車で土を運び、肥料と水を与えながら、5本のしだれ桜の木を植えました。

植樹の後には、集まった子どもや自治会役員、地域づくり委員などが参加しての芋煮会が行われ、地域内の親睦が図られました。

地域づくり計画書が最初に行きあがった峠田地区では、お年寄りの見守り事業や防災無線の一斉電池交換などの取り組みが行われています。

